

平成30年度（2018年度）

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程（B日程）

学生募集要項

一般選抜  
特別選抜（社会人）  
特別選抜（外国人）

【連絡先】

〒670-0092

姫路市新在家本町1-1-12

兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課

電話 (079) 292-1513

FAX (079) 292-1530

問い合わせ受付時間 平日9:30~17:00

# 目 次

	頁
I. 平成30年度4月入学募集要項 . . . . .	1～4
1 募集人員	
2 出願資格及び条件	
3 願書受付期間	
4 出願手続	
5 選考方法	
6 学力試験日程等	
7 合格発表	
8 入学料及び授業料	
9 入学手続	
10 注意事項	
(参考)	
・ 出願手続に必要な書類等一覧	
・ 出願資格認定について	

II. 環境人間学研究科（博士前期課程）担当教員と研究部門 . . . . .	5～8
---	-----

## 【出願手続に関する提出書類等】

- ① 入学願書（様式 1）
- ② 博士前期課程における研究計画書（様式 2）
- ③ 承諾書（一般・外国人）（様式 3）
- ④ 承諾書（社会人）（様式 4）
- ⑤ 出願資格認定審査申請書（様式 5）
- ⑥ 研究・活動報告書（その 1）（様式 6）
- ⑦ 研究・活動報告書（その 2）（様式 7）
- ⑧ 研究・活動内容確認書（様式 8）

## 【その他】

長期履修制度について

※ アクセス及び建物配置図

## 環境人間学研究科のアドミッションポリシー

環境人間学研究科は、環境と人間に関する学際的、融合的なアプローチを通じて、新たな環境創造を担う高度な識見、研究力をもった人材の育成を教育理念としています。この理念の実現に向けて、人間学の基本に立ちながら、社会のニーズに応える高度な専門知識と問題発見能力を持ち、かつ環境に関する諸問題を体系的・総合的に分析・解明できる能力を有する専門職業人の養成を目指しています。

そこで環境人間学研究科では、次のような学生を求めています。

- 1) 環境と人間に関する諸問題に関心を持ち、専門職業人としての基礎的な学問を学び、研究する意欲のある人
- 2) 環境と人間に関する諸問題に対して、より広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって、体系的な問題発見・分析能力と技術を身につけることを目指す人
- 3) 環境と人間に関する諸問題に対応する方策を具体的に考案し、知的好奇心を持って積極的・活動的に取り組む行動力のある人
- 4) 環境と人間との相互作用として、人間の健康や文化の多様性を探求し、環境共生社会の実現に向けた具体的な方策を考えようという人

I. 平成30年度大学院環境人間学研究科博士前期課程の学生を次のとおり募集します。 (平成30年4月入学)

B 日程	一般選抜	特別選抜 (社会人)	特別選抜 (外国人)
1. 募集人員	環境人間学専攻 20 名程度	環境人間学専攻 若干名	環境人間学専攻 若干名
2. 出願資格及び条件	<p>(1) 出願資格 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>① 大学を卒業した者及び平成30年3月31日までに卒業見込みの者</p> <p>② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年3月31日までに授与される見込みの者</p> <p>③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>④ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>⑤ 昭和28年文部省告示第5号により文部科学大臣の指定した者(平成30年3月31日までに該当する見込みの者を含む)</p> <p>⑥ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時まで22歳に達している者</p> <p>⑥に該当する者は、<u>出願前に本研究科の出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ(出願資格認定について)を読んで手続きすること。</u></p> <p>*この試験は外国人学生、帰国子女を含む</p>	<p>(1) 出願資格 本学環境人間学研究科指導教員の推薦があった者で、平成30年4月1日現在において24歳以上で2年以上の勤務経験または社会経験を有し、その経験を大学院での研究水準において深化させることを目指す者で、次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>① 大学を卒業した者及び平成30年3月31日までに卒業見込みの者</p> <p>② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年3月31日までに授与される見込みの者</p> <p>③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>④ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>⑤ 昭和28年文部省告示第5号により文部科学大臣の指定した者(平成30年3月31日までに該当する見込みの者を含む)</p> <p>⑥ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者 <u>社会人学生として出願する者はすべて出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ(出願資格認定について)を読んで手続きすること。</u></p>	<p>(1) 出願資格 日本国籍を有しない者で、次の各号のいずれかに該当し、入学後「留学」の在留資格が取得できる者、かつ、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N2以上、または独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」200点以上を取得した者</p> <p>① 日本の大学を卒業した者及び平成30年3月31日までに卒業見込みの者</p> <p>② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年3月31日までに授与される見込みの者</p> <p>③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>④ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>⑤ 昭和28年文部省告示第5号により文部科学大臣の指定した者(平成30年3月31日までに該当する見込みの者を含む)</p> <p>⑥ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で入学時まで22歳に達している者。これに該当する者は、<u>出願前に本研究科の出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ(出願資格認定について)を読んで手続きすること。</u></p> <p>[日本留学試験に関する指定条件] 平成28年度及び平成29年度に実施される試験(受験科目は「日本語」)のいずれか1回の受験が必要である。</p>
	<p>(2) 出願条件 出願者は、<b>希望する研究指導教員とあらかじめ協議のうえ出願</b>すること。 日本に在住しない外国人が出願するにあたっては、諸々の手続き(出願、受験、入学、入国等)について、希望する研究指導教員と入念に事前打ち合わせを行うこと。</p>		
3. 願書受付期間	平成30年1月15日(月)から平成30年1月25日(木)まで(必着) 受付時間:土曜・日曜・祝日を除き、午前9時30分から午後4時まで		

B 日程	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜（外国人）
4. 出願手続	<p>下記の書類等に入学考査料30,000円（ゆうちょ銀行または郵便局が平成30年1月4日以降に振出した「普通為替証書」によること。ただし、<u>証書には何も記入しないこと</u>）を添えて兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課に提出する。</p>		
	<p>① 入学願書（本学所定の様式1）</p> <p>② 外国人留学生は、住民票（在留資格、在留期間の記載されたもの）</p> <p>③ 研究計画書（本学所定の様式2）</p> <p>④ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式3）</p> <p>⑤ <u>TOEIC、TOEIC-IP、TOEFL-iBT、TOEFL-PBT、TOEFL-ITP のうちいずれかをあらかじめ受験したうえで、その成績証明書のコピー（成績証明書の有効期限は、願書提出期限日から3年以内とする。すなわち、証明書発行日が平成27年1月25日～平成30年1月25日までのもの）</u></p>	<p>① 入学願書（本学所定の様式1）</p> <p>② 研究計画書（本学所定の様式2）・その他あれば研究業績論文</p> <p>③ <u>英文による研究計画書（様式2に準じたもの）</u></p> <p>④ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式4）</p> <p>⑤ 外国人は、住民票（在留資格、在留期間の記載されたもの）</p>	<p>① 入学願書（本学所定の様式1）</p> <p>② 研究計画書（本学所定の様式2）</p> <p>③ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式3）</p> <p>④ TOEIC、TOEIC-IP、TOEFL-iBT、TOEFL-PBT、TOEFL-ITP のうちいずれかをあらかじめ受験したうえで、その成績証明書のコピー（成績証明書の有効期限は、願書提出期限日から3年以内とする。すなわち、証明書発行日が平成27年1月25日～平成30年1月25日までのもの）</p> <p>⑤ <u>日本語能力認定書（写）、または日本留学試験成績証明書（写）</u></p>
	<p>（共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出身大学の卒業証明書、卒業見込み証明書または学位授与証明書及び成績証明書、（和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること）</li> <li>・ 写真2枚（入学願書の所定欄に出願前3か月以内に撮影したものを貼付。サイズ：縦4cm×横3cm）</li> <li>・ 受験票返送用封筒（362円分切手を貼付。ただし、願書提出期限の翌日以降に受験票を取りに来る者は不要）（封筒には住所、氏名を記載し、「速達」と朱書きすること）</li> </ul> <p>※ 事前審査の際に提出した書類は、提出しなくてよい</p>		
5. 選抜方法	<p>入学者の選抜は、学力試験、口述試験及び出願書類を総合して行う。英語においては最低基準点を設けることがある。</p>		
6. 学力試験日程等	<p>(1) 日時・試験科目</p> <p><b>平成30年2月27日（火）</b></p> <p>・ 専門Ⅰ、専門Ⅱ（小論文形式） 10:00～12:00</p> <p>・ 口述試験 13:00～</p> <p>専門Ⅰは、博士前期課程での研究に関連した分野から出題する。 専門Ⅱは小論文形式で、環境人間学についての理解力、思考力、読解力、考え方等を問う出題とする。</p> <p>(注) 外国語（英語）試験の代わりに外部試験を導入する（TOEIC または TOEFL のスコアを研究科独自の換算基準により換算し、外国語（英語）の得点とする。）。</p> <p>*受験生はあらかじめ受験しておくこと。</p>	<p>(1) 日時・試験科目</p> <p><b>平成30年2月27日（火）</b></p> <p>・ 専門Ⅰ、専門Ⅱ（小論文形式） 10:00～12:00</p> <p>・ 口述試験 13:00～</p> <p>専門Ⅰは、博士前期課程での研究に関連した分野から出題する。 専門Ⅱは、小論文形式で環境人間学についての理解力、思考力、読解力、考え方等を問う出題とする。</p> <p>(注) 外国語（英語）の試験は課さない。</p>	<p>(1) 日時・試験科目</p> <p><b>平成30年2月27日（火）</b></p> <p>・ 専門Ⅰ、専門Ⅱ（小論文形式） 10:00～12:00</p> <p>・ 口述試験 13:00～</p> <p>専門Ⅰは、博士前期課程での研究に関連した分野から出題する。 専門Ⅱは、小論文形式で環境人間学についての理解力、思考力、読解力、考え方等を問う出題とする。</p> <p>(注) 外国語（英語）試験の代わりに外部試験を導入する（TOEIC または TOEFL のスコアを研究科独自の換算基準により換算し、外国語（英語）の得点とする。）。</p> <p>*受験生はあらかじめ受験しておくこと。</p>
	<p>(2) 学力試験及び口述試験会場 姫路市新在家本町1丁目1番12号 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス (詳細については、当日、本学キャンパス内に掲示する)</p>		
7. 合格発表	<p>平成30年3月5日（月）午前10時 （姫路環境人間キャンパス情報・教育棟1階ロビー窓ガラス面に掲示するとともに、合格者には郵便により通知する。なお、電話による問い合わせには一切応じない）</p>		

## 8. 入学料及び授業料（平成29年4月1日現在）

区 分		納入時期			合 計
		平成 30 年 3 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 10 月	
入 学 料	県 内	282,000円			282,000円
	県 外	423,000円			423,000円
授 業 料			267,900円	267,900円	535,800円
諸 経 費	本大学卒業生		24,000円		24,000円
	他大学卒業生		66,000円		66,000円

- (注) (1) 公立大学法人兵庫県立大学授業料等に関する規程が改正された場合は、その金額による。  
(2) 上記のうち、県内はア～エのいずれかに該当する者で、県外はそれ以外の者。  
ア. 入学の日（平成30年4月1日）の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する者  
イ. 配偶者又は1親等の親族が、入学の日の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する  
ウ. 入学する者が、本学学部から引き続き大学院に入学する場合  
エ. 外国人特別選抜入試により入学する場合  
(3) 諸経費は、入学時の4月のみ納付していただきます。

## 9. 入学手続

手続期間 平成 30 年 3 月下旬

入学手続書類は、平成 30 年 3 月上旬に郵送の予定。

## 10. 注 意 事 項

- (1) 出願書類等を郵送する場合は、簡易書留とすること。（締切当日必着）  
（送付先：〒670-0092 姫路市新在家本町1丁目1番12号 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課）
- (2) 既に納付された入学考査料は、理由のいかんにかかわらず返還しない。
- (3) 授業はすべて日本語で行われるので、外国人学生で日本語の能力が十分でない者は、日本語の予備教育を受けておくことが望ましい。  
外国人学生は、在学中の学費・生活費等について、自ら責任を持って準備する必要がある。
- (4) 身体に障がいがある者との事前協議  
身体に障がいがある者は、受験及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、願書受付期間前の平成30年1月10日（水）16:00までに申し出ること。協議申請書（健康診断書等必要書類添付）を提出し、必要な場合、本学において志願者又はその立場を代弁しうる関係者等との面談を行う。
- (5) 在職する者で在職企業・官庁等の出願承諾書を提出（任意）する場合は様式を学務課に問い合わせること。
- (6) 一般選抜の出願資格⑥、特別選抜（外国人）の出願資格⑥に該当する者、及び特別選抜（社会人）が出願する場合は、出願に先立ち事前審査を実施する。4ページを読み、必要書類の様式は学務課に問い合わせること。
- (7) 職業を有している等の事情により、標準就業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、長期履修制度を設けている。希望する者は「長期履修制度について」を読み、期日までに申請手続きを行うこと。
- (8) 納付した入学料は、いかなる理由があろうと返還いたしません。

参考 出願手続に必要な書類等一覧

	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜（外国人）
(1) 入学願書	○ (様式1)	○ (様式1)	○ (様式1)
(2) 研究計画書	○ (様式2)	○ (様式2)	○ (様式2)
(3) 研究計画書（英文）	—	○ (様式2に準じたもの)	—
(4) 研究指導教員の承諾書	○ (様式3)	○ (様式4) ※事前出願資格認定で提出	○ (様式3)
(5) 住民票	外国人	外国人	—
(6) TOEIC, TOEIC-IP, TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, TOEFL-ITP の成績証明書コピー	○	—	○
(7) 日本語能力認定書（写）または日本留学試験成績証明書（写）	—	—	○
(8) 出身大学の卒業証明書、卒業見込み証明書または学位授与証明書及び成績証明書	○	○	○
(9) 写真2枚	○	○	○

出願資格認定について

(1) 事前審査

一般選抜の出願資格⑥、特別選抜（外国人）の出願資格⑥に該当する者、及び特別選抜（社会人）が出願する場合は、出願に先立ち事前審査を実施する。

下記の書類を希望する研究指導教員に提出し、あらかじめ協議し審査を受けた上で、平成30年1月4日（木）～1月10日（水）までに、姫路環境人間キャンパス学務課まで提出すること。郵送の場合は、簡易書留郵便（締切当日必着）とし、封筒に「博士前期課程出願資格事前審査書類在中」と朱書きすること。

- ・ 出願資格認定審査申請書（本学所定の様式5による）
- ・ 本学環境人間学研究科指導教員の承諾書（社会人学生のみ、本学所定の様式4）
- ・ 卒業証明書（最終出身学校）※和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。
- ・ 成績証明書（最終出身学校）※和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。
- ・ 研究・活動報告書（その1）（本学所定の様式6）
- ・ 研究・活動報告書（その2）（本学所定の様式7）
- ・ 研究・活動内容確認書（本学所定の様式8）
- ・ 審査結果通知用封筒（長3封筒に速達郵便用切手362円分を貼り、返送先の住所・氏名を記入したもの）

(2) 出願手続

出願資格認定の審査結果は文書で平成30年1月15日（月）までに本人あて通知する。認定された者は、願書受付期間中に所定の書類を整え提出し、出願手続をとること。（2ページ参照）

II.環境人間学研究科(博士前期課程)指導教員 (平成30年4月入学者用・平成29年4月1日現在)

部門	教員名	専門分野	研究内容	担当科目名
I 人間環境部門	* 芦田 宏	幼児教育学	変貌しつつある幼年期(乳幼児期から小学校低学年)教育の制度的側面を視野におきつつ、学びの内容・形態・方法を中心とした研究	幼年期教育特論
	有満 秀幸	細菌学	食中毒予防、また食の安定提供を目的とした、ヒトや家畜に下痢症などの疾患を引き起こす細菌の病原因子に関する研究、及びそれらの予防・診断法の開発	生命環境特論
	* 石倉 和佳	表象文化学	イギリスを中心とした風景論、庭園論、および環境と関連する文化表象に関する研究	近現代表象文化特論
	石坂 朱里	食品機能学	機能性食品成分の生体内動態と活性発現メカニズムに関する研究	
	* 伊藤美紀子	臨床栄養学、代謝栄養学	栄養が大きく関わる疾患の、予防・治療を目指した生体内メカニズムの解明と栄養療法につながるエビデンスの探索。特に腎疾患並びに骨疾患。	実践栄養学特論
	* 乾 美紀	多文化共生教育、マイノリティの教育	文化的に多様な背景を持つマイノリティの子どもたちの教育問題と教育支援に関する研究	多文化共生教育特論
	* 井上 靖子	臨床心理学、心理療法	心の諸問題に対する深層心理学的分析及びイメージ、からだ、想像力を手がかりとした心理臨床実践研究。	臨床心理学特論
	* 内田 勇人	小児保健学、老年学	子どもの発達と健康、若年者・高齢者に対するヘルスプロモーションに関する研究	健康発達特論
	* 奥田 恭士	フランス文学	19世紀フランスの文学および文化に現われた環境意識に関する研究	フランスの環境文化特論
	* 尾崎 公子	教育学	学校づくりとまちづくりの両観点を踏まえた地域教育政策に関する研究	地域教育政策特論
	* 坂上 元祥	糖尿病代謝病、病態栄養学	肥満・糖尿病の病態に関わる遺伝要因と環境要因の分子生物学的・細胞生物学的解析、および肥満・糖尿病の治療学的研究(薬物療法、運動・食事療法)	実践栄養学特論
	* 坂本 薫	食物学、調理学	調理・食品加工における食味向上に関する研究、および食生活・食文化にかかわる調査研究	食品科学特論
	* 田中 智子	住環境計画学	高齢期や育児期の家族、共働き家族の生活を支援するために都市における住宅や住環境がどのような要件を備えるべきかを探求する	福祉住環境学特論
	* 田路 秀樹	スポーツ生理学、トレーニング科学	性別、年代別における骨格筋の形態的、機能的変化とトレーニング法に関する研究	トレーニング特論
	* 寺西 雅之	文体論、英語教育・学習論	文体論を活用した文学・言語・コミュニケーション研究及び英語教育	環境英語表現特別演習
		友繁 義典	英語学	英語の意味論・語用論、英語の語法・文法
* 永井 成美	栄養教育、栄養生理学	食教育プログラム・教材の開発と評価に関する研究 食事と健康に関する栄養生理学的研究	サイエンス・プレゼンテーション	
	東 勉	イギリス文学	イギリス・ルネサンス期のシェイクスピアの劇作にみる人間観・自然観の研究	英米言語文化特論



部門	教員名	専門分野	研究内容	担当科目名	
I 人間環境部門	* 村上 明	食品機能学	植物由来の生理機能性成分（ファイトケミカル）の作用分子メカニズムに関する研究	食品科学特論	
	* 吉村 美紀	食品プロセス科学、食品物性	食品の物性と嗜好性、食品のテクスチャー・コントロール、高齢者用食品と増粘多糖類のレオロジーの研究	食品科学特論	
II 社会環境部門	* 池野 英利	生体情報工学	生物の感覚受容と行動制御の神経機構に関する研究及びそのための実験・ソフトウェア環境の開発	環境情報科学特論	
	* 井関 崇博	ガバナンス論 社会学	市民参加・協働型の地域経営／環境管理のあり方、また、そこで重要な役割を担う市民社会組織の支援方策について研究する。	環境社会学特論	
	* 宇高 雄志	住宅計画	アジアにおける人間居住と生活空間のデザイン	住宅計画特論	
		榎原 周平	栄養生化学	食品に含まれる微量栄養素の解析とその機能に関する栄養生化学的研究	
	* 太田 尚孝	都市計画学	わが国の持続可能な都市の発展に資する計画制度や計画技術、プランナーのあり方に関する研究	都市計画特論	
	* 大橋 瑞江	森林生態学	森林生態系を構成する生物・非生物要因の相互作用、人間活動と森林の環境形成機能との関わりを研究する	森林生態学特論	
	* 奥 勇一郎	応用気象学	温暖化気候における台風等の極端気象およびその影響評価に関する研究、衛星リモートセンシングによるヒートアイランド現象に関する観測的研究	大気科学特論	
	* 糟屋 美千子	言語社会学、 メディア・ ディスコース 分析	メディア・ディスコースが現代社会の維持・変容に与える影響、及びその分析手法についての研究	言語社会分析特論	
	* 加藤 陽二	生化学、食品 化学	老化や疾病に深く関連した「活性酸素」による生体傷害の機構解明とその予防	生命環境特論	
	* 木村 玲欧	防災社会学、 防災心理学	「防災」をテーマにした、安全・安心な社会環境を実現するための人間心理・行動、社会システム研究	防災心理・行動科学特論	
	* 篠原 光児	家族法学	法律において「家族」が何を意味するか、それがどのような法思想ないし法文化によるかを考える。	家族法特論	
		杉山 武志	人文地理学	地域コミュニティの創造に向けた社会経済地理学的研究	地域コミュニティ特論
	* 土川 忠浩	建築環境学	建築・都市空間における環境と健康・快適性、建築材料の熱・湿气的性能と省エネルギー、地域・都市気候と住宅・住まい方の関係、住環境教育に関する研究	住環境学特論	
	* 鄧 秀	比較・国際教育 学	人口問題および急増する人口による環境破壊の問題に対して、教育の果たすべき役割を考える。	人口と教育特論	
		中桐 斉之	生態情報学	モデリングと格子上のモンテカルロ・シミュレーション等によって生物の絶滅問題や適応（最適化）問題を研究する。	生態情報学特論
* 中畠 一憲	環境経済学	環境経済モデルによる政策評価のためのシミュレーション分析、および環境評価手法による環境の経済的価値評価に関する研究	環境経済・政策特論		

部門	教員名	専門分野	研究内容	担当科目名
II 社会環境部門	* 中松 和巳	応用論理学・人工知能論	パラコンシステント論理プログラムEVALPSNの展開と応用に関する研究	知的システム構築特論
	* 深江 亮平	環境適合性材料学、高分子学	環境と調和した素材の開発、及び汎用素材の環境負荷軽減化の研究	環境関連材料学特論
	* 水上 優	建築論・建築設計学	建築設計行為における思索と制作の連関に関する建築論的研究	建築・インテリア設計特論
	* 三田村 哲哉	建築史・意匠学	建築史において高評を得た秀作を通して、建築美を生み出す造形原理を解明する研究	建築意匠特論
	* 三宅 康成	農村計画学・農業土木学	農山村地域における農村計画手法の開発・提案、および土地利用、都市・農村交流に関する研究	農村計画特論
	* 安枝 英俊	建築計画学	少子高齢社会・ストック型社会・環境配慮型社会に対応した建築計画に関する研究	建築計画特論
	* 山村 充	薬学・環境行政学	日本及び諸外国における環境保全のための政策手法に関する事例研究及び比較研究	環境経済・政策特論
III 共生博物部門	* 赤澤 宏樹	緑地計画学・造園学	緑環境や暮らしの表出を中心とした景観づくり、公園を中心としたまちづくりを通して、人と自然が共生する環境創出を実践・研究する。	ランドスケープ計画特論
	秋山 弘之	植物分類学 植物地理学	花をつけない陸上植物の代表であるコケ植物ならびに大型菌類を対象として、野外で種多様性を深く認識する手法等について実践的な演習を行う。	植物多様性科学特論
	* 石田 弘明	植生学、 保全生態学	森林群落、特に人間との関わりの深い照葉樹林、ブナ林、里山林の生物多様性とその保全・再生にする研究	植生学特別演習
	* 太田 英利	系統分類学、 生物地理学、	脊椎動物、なかでも爬虫類や両生類を対象に、その進化、種分化の過程やその結果としての現在の多様性の把握や保全、こうした多様性を反映するための分類体系の構築などについて研究する。	系統分類学特論
	大谷 雅人	保全遺伝学、 保全生態学、 植物生態学	絶滅危惧種や地域固有種がなぜ危機的な状況に陥ったのか、彼らを保全するにはどうすればよいのかを明らかにするため、生態学的・遺伝学的視点から研究を行っている。	分子生態学特論
	黒田有寿茂	植物生態学、 植生学、保全生態学	植物の生活形、生活史、成長と繁殖、植物群落の種組成、構造、遷移といった植物・植生に関わる生態的特性とその多様性ならびに成因について論じる	植物生態学特論
	* 三枝 春生	古脊椎動物学	恐竜類、哺乳類の化石あるいはそれらを含有する地層を主な材料として脊椎動物の進化史を研究する。	古脊椎動物学特論
	* 佐藤 裕司	第四紀学、 環境生物学	過去に学び、現在を知り、未来へ生かす自然史の視点から、陸・水圏の環境変遷と環境保全のあり方について演習する。	陸・水圏自然史特別演習
	高木 俊	個体群生態学、 群集生態学	陸上の動物（おもに哺乳類・節足動物）を対象に、個体数や分布の時空間的変動および生物間の相互作用のパターンとプロセスについて研究する。	個体群生態学特論
	* 高橋 鉄美	進化生態学、 群集生態学、 系統分類学	魚類を中心に、その生態や形態の多様性を進化的な視点から研究する。	進化生態学特論
* 高橋 晃	植物形態学、 植物分類学	植物分類学、形態学、植物地理学等の手法により、おもに野生植物の種多様性の認識方法について演習し、その貴重性評価や多様性保全方法を研究する。	生物多様性特別演習	

部門	教員名	専門分野	研究内容	担当科目名
Ⅲ 共生 博物 部門	* 橋本 佳明	膜翅目昆虫 (アリ類等) 系統分類学 里山昆虫多様性 生物学 熱帯林生物多様 性創出・維持機 構研究	昆虫(とくに、アリ類やカリバチ類)を対象に、生物多様性の解析や記述、さらには多様性創出や維持機構の基盤となる種間相互作用や共進化などについての演習や研究を、里山や熱帯雨林などをフィールドに行う。	昆虫多様性生物学特論
	* 藤木 大介	森林生態学	森林生態系管理に関する研究。特に、ニホンジカが森林生態系に及ぼしている影響の解明と森林生態系保全のための適切な管理のあり方についての研究。	森林管理学特論
	三谷 雅純	霊長類学(サル学)、 動物生態学	ヒト上科やサル類の行動と生態	人間行動進化学特論
	* 森光 由樹	保全遺伝学 野生動物医学	遺伝的多様性を把握するために必要な、サンプルの収集、DNA分析および解析、遺伝的多様性回復の方法など実践的な手法について研究する。	保全遺伝学特論
	* 山内 健生	動物分類学、 衛生動物学	節足動物を中心とした無脊椎動物の分類、系統、多様性などについての研究	無脊椎動物分類学特別演習
	* 横山 真弓	野生動物管理 学	野生動物の健全な個体群を維持し、人との軋轢を低減するための野生動物の保全と管理を実施するための基盤となるモニタリング手法について演習する。	ワイルドライフマネジメント特論
	和田 年史	海洋生物生態 学	海洋生物(おもに頭足類・甲殻類・魚類等)を対象に、それらの多様性や生きざま(生活史や繁殖等)を調べて、沿岸生態系や自然環境の保全につなげる取り組みを探究する。	海洋生物生態学特論

\*印は、研究指導教員

# 博士前期課程 (様式)

## 長期履修制度について

### (1) 趣 旨

この制度は、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象とし、事情に応じて標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができる。

### (2) 出願資格

長期履修学生として出願することができる者は入学資格を有する者のうち、次のいずれかに該当する者である。

ア 職業を有する者（正規職員以外も含み、主としてその収入で生計を立てている者）

イ 育児、長期介護等により、標準修業年限で修了することが困難な者

ウ 病気等その他やむをえない事情を有し、標準修業年限で修了することが困難であると研究科長が認めた者

### (3) 在学期間

長期履修学生の在学期間は博士前期課程にあつては3年以上4年まで、博士後期課程にあつては、4年以上6年までとなる。なお、長期履修を認める期間は1年単位である。

### (4) 長期履修制度に係る授業料

公立大学法人兵庫県立大学授業料等に関する規程で定められた大学の授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修学生として認められた在学期間（以下「長期在学期間」という）の年数で除した額とする。

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合は再計算される。

$$\text{長期履修学生の年間の授業料} = \frac{\text{通常の授業料} \times \text{標準修業年限}}{\text{長期在学期間の年数}}$$

### (5) 長期在学期間の延長

長期在学期間の延長は認められない。

### (6) 長期在学期間の短縮

長期履修学生が長期在学期間を満了しないうちに課程を修了する必要単位数を取得する見込みのある場合は、長期在学期間の短縮をすることができる。

なお、在学期間を短縮する場合は、短縮を認められるときに短縮に係る授業料の差額が必要となる。長期在学期間の短縮を受けようとする者は、短縮により修了することとなる年度の11月1日～12月28日までに長期在学期間短縮願を学務課に提出すること。

### (7) 申請手続き

長期履修学生を希望する方は、事前に指導教員に相談の上、次のア、イ、ウの書類を入学手続き期間中に、姫路環境人間キャンパス学務課へ提出すること。（期間厳守）ただし、何か特別な事情がある場合は学務課へ相談すること。

ア 長期履修学生許可願

イ 理由書

ウ 別表に定めるその他必要な書類

#### 別表

区 分	必 要 書 類
職業を有する者（正規職員以外も含み、主としてその収入で生計を立てている者）	在職証明書又はそれに代わるもの
育児、長期介護等により、標準修業年限で修了することが困難な者	本人の申立書
病気等その他やむをえない事情を有し、標準修業年限で修了することが困難であると研究科長が認めた者	診断書等研究科において必要とされる書類

## アクセス及び建物配置図

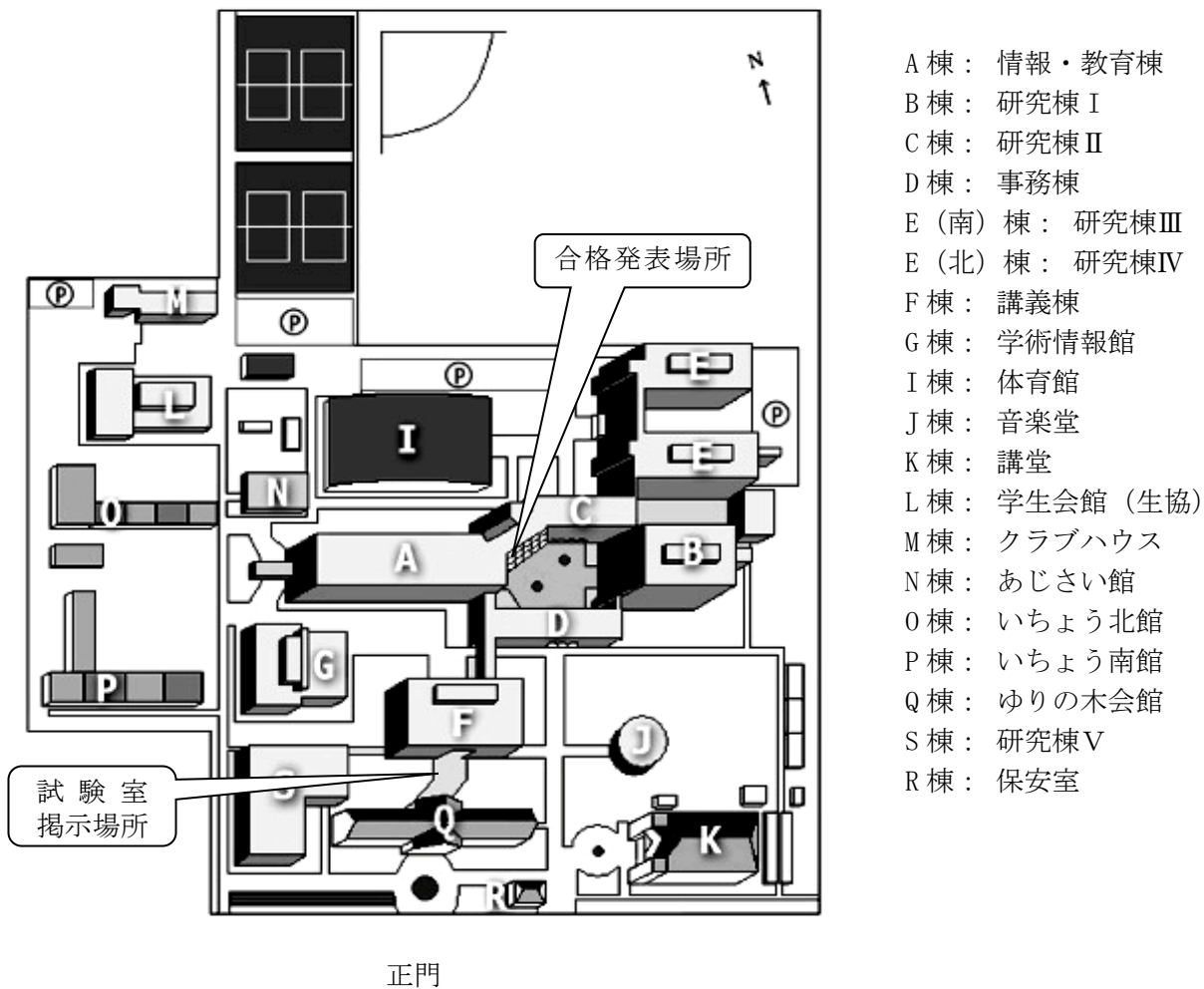
### バスでお越しの方

料金 大人 210 円（平成 29 年 4 月現在） J R ・山陽電鉄姫路駅北側より神姫バス（西高前行き、田寺北口行き、書写ロープウェイ行き、大池台行き）乗車 「県立大環境人間学部」降車

### タクシーでお越しの方【重要】

中央改札出て（お城側）、『近距離タクシー乗り場』が便利です。行き先を「環境人間学部」とはっきり教えてください。（乗車 10 分程度で到着するはずですが、「兵庫県立大学」だけを行き先として伝えると間違って工学部（書写）などに行く場合がありますので、充分ご注意ください）

兵庫県立大学 姫路環境人間キャンパス配置図



## 兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

ホームページ <http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/daigakuin/index.html>

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1丁目1番12号

TEL (079) 292-1513 (学務課直通)

FAX (079) 292-1530